



三重県地域包括・在宅介護支援センター協議会

MAIL NEWS

2023年11月発行

会長挨拶

拝啓、晩秋の候、皆様におかれましては、ますますご清祥のことと心よりお喜び申し上げます。また、当協議会の事業運営にご理解とご協力誠にありがとうございます。

この度、私共、三重県地域包括・在宅介護支援センター協議会は、メールニュースという形で初めて機関誌を発行する運びとなりました。内容につきましては、全国協議会の動向、三重県の各役員、事業運営委員の活動、事業所の紹介、今後の研修計画等、このメールニュースをお読みいただける会員の皆様が、今後のお仕事の参考になるような情報源としてご活用頂くことを目的としております。令和6年度のトリプル改正に向けた動きとしては、令和5年11月6日に第230回社会保障審議会介護給付費分科会が開催され、地域包括支援センターの体制整備、指定居宅介護支援事業所の市町による介護予防支援事業所指定はもとより、私たちの仕事にも直結する医療介護連携の推進やACPIについての視点、ヤングケアラーへの支援に備えた準備、オンラインモニタリング等についても議論されています。

さて、令和2年から新型コロナウイルスが猛威をふるい、外出もままならなかった3年間ではございましたが、令和5年5月8日から感染法上2類相当から5類感染症に変わり、引き続き感染対策は必要でありつつも、人の動きは少しずつ活性化してまいりました。その状況に伴い、今年度の東海北陸ブロック研究大会「三重大会」につきましては、オンラインではなく、対面での研究大会を行うことといたしました。愛知県、岐阜県、福井県、石川県、富山県の志を同じくする方々が集い、日頃の悩みや成功体験を分かち合い、そしてお互いを労いながら今後のお仕事の糧にして頂ける絶好の機会と考えております。是非、皆様のご参加をお待ちしております。

最後に、三重県地域包括・在宅介護支援センター協議会では、皆様のお仕事に直結した様々な研修プログラムを企画しています。是非、会員事業所の皆様におかれましても、今後とも当協議会の運営にご協力賜りますようお願い申し上げます。

令和5年11月

三重県地域包括・在宅介護支援センター協議会 会長 竹下彰人





三重県内の、地域包括支援センター・在宅介護支援センター同士 つなげて・つながっていきませんか？

皆さんが毎日お仕事に励んでいただいている、三重県。三重県の人口は令和5年9月末の統計で、1,728,253人です。地域包括支援センターを三重県内に5万人に1カ所設置すると考えると、35カ所ほど。3万人に1カ所と考えると、58カ所ほどの設置が必要となります。実際に三重県内で登録されている地域包括支援センターは68カ所。在宅介護支援センターは56カ所あります。この現在の設置状況は、地域で生活する方々にとって身近な相談窓口となるべき地域包括支援センター・在宅介護支援センターの設置数として充足していると言っていいのでしょうか？生活の中の困りごとが複雑化し、重層的支援が必要なが増え、家族の皆さんまるごと支援が必要というように、多世代の支援にあたることも多くなってきている現状ではないのでしょうか？そのように、複雑化・多様化・多年齢化していく対応が必要だからこそ、地域包括支援センター・在宅介護支援センターで活躍する皆さんの力量が求められることも事実です。

そこで、このコーナーでは、**それぞれのセンターの特徴や頑張っていること、担当している地域の特徴などを紹介しながら、つながり合うことができると考えています。同じ三重県で頑張っている皆さんが、つなげて・つながって一つの力となるように…。**いつか皆さんが活躍されているセンターに、バトンが渡るかもしれません。その際は、どうぞ協力いただきますようお願いいたします！！



令和5年度東海北陸ブロック地域包括・在宅介護支援センター研究大会「三重大会」

「地域包括・在宅介護支援センターの現在地（2025年問題）を考える

～未来に向けて私たちができること～

人口減少と少子高齢化が進むなか、8050問題や育児と介護のダブルケア、ヤングケラーなど複合的な課題を抱える住民のニーズには、従来の高齢者、障害者、児童などの対象者別の支援体制では対応が難しく、私たち地域包括・在宅介護支援センターに求められる機能や役割はますます大きくなっています。

このような中、地域における複雑化・複合化した支援ニーズに対応するため、地域包括・在宅介護支援センターは、地域包括ケアの中心的な担い手として、全ての人々が安心して暮らし続けていくために、地域包括ケアの推進、地域の住民・各関係機関が連携を図り、支えあうことができる地域づくりが求められています。

この研究大会では、2025年問題に向けた地域包括・在宅介護支援センターの現在地を話し合い、さらに2040年問題に向けた取り組みを考える機会を持つなかで、各県で活躍する仲間との交流・情報の共有を図り、各センターがそれぞれの地域で業務に活かしていくことを目的として開催します。

<開催期日時> 12月1日（金） 13時開会（12時30分 受付開始）

<会場> 全体会・シンポジウム：三重県総合文化センター 文化会館棟 地下1階 小ホール

（三重県津市一身田上津部田1234番地）





全国地域包括・在宅介護支援センター協議会 北海道大会について

令和5年度9月11日(月)、12日(火)に北海道「かでる2.27」にて開催された大会に、三重県から竹下会長、伊藤委員、事務局 松本と共に参加させていただきました。

大会では、子どもでも、障がいがあっても、高齢になっても、また認知症と診断されても、住み慣れた土地で自分らしい暮らしを安心して人生最期まで続けることができるよう、地域包括ケアシステムの構築が重要だということ学びました。

センターにおける相談件数と介護予防相談件数は年々増加傾向にある中で、「多職種の協働・連携について、役割をベースに考えながら相手の力量を配慮し自分の動きを考えることが大事であり、それはサッカーやラグビーのようなチームスポーツに似ている」というお話が印象的でした。昨年度より三重県地域包括・在宅介護支援センター協議会の事務局を担当させて頂いております。これからも事務局の立場から皆様のお役に立てるよう頑張りたいと思います。今後ともよろしく願いいたします。

三重県地域包括・在宅介護支援センター協議会事務局 中野朝美



三重県地域包括・在宅介護支援センター協議会の役員が 三重県医療保険部関係各種委員会に参画し、多機関と連携・協働しています!!



- ①三重県認知症疾患医療センター連携協議会
- ②三重県在宅医療推進懇話会
- ③三重県介護予防市町支援委員会
- ④三重県公衆衛生審議会
- ⑤三重県認知症施策推進会議
- ⑥三重県循環器病対策推進協議会
・下部組織 社会連携・リハビリ部会
- ⑦三重県若年性認知症自立支援ネットワーク会議
- ⑧災害時における福祉支援ネットワーク会議





2023年度 今後の研修予定

今年度実施予定の研修を紹介いたします。開催日や詳細が決定しましたら改めてご案内させていただきます。

開始予定月	テーマ	具体的内容
1月	認知症と診断された場合の運転免許返納について	運転免許返納に向けた動き方や、関係機関との連携方法などについて考える。
2月	もしものときの対応について (ACPの作成について) 	「終活」「断捨離」という言葉をよく耳にされるようになって久しいが、実際その取り組みについて広く浸透している現状とはいいいがたく、実際ケアマネジメントで対応している利用者やその家族の状況はいかがでしょうか？ケアマネジャーや相談員の立場で、なかなか切り出すことが難しい「亡くなる時・亡くなってから」の話。しかし、より本人らしく過ごしていくためにも、まさかの緊急時に備えるためにも非常に重要なことであるACPの取組について、学ぶ機会となるよう企画。
3月5日(火)	セルフネグレクトの予防と支援 	在宅介護での支援者としての役割や引きこもりがちな高齢者の方へのアプローチや支援方法を事例等を通して学び、ご本人が生きていくことへの意欲を持ち、地域で健康で安全な生活を送っていただくことを目指す。

<役員・事業運営委員 紹介>

- ・会長 竹下 彰人 (津久居地域包括支援センター)
- ・副会長 中嶋 章人 (四日市市北地域包括支援センター)
- ・事業運営委員長 島田 美麻 (在宅介護支援センターつまちなか地域総合相談センターシルバーケア豊壽園)
- ・事業運営副委員長 樋口 英昭 (ヴィラ四日市在宅介護サービスセンター)
- ・事業運営委員 森 ゆかり (四日市市北地域包括支援センター)
- 宮内 万琴 (津中部南地域包括支援センター)
- 伊藤 理恵 (鈴鹿第5地域包括支援センター ひいらぎ)
- 岡部 充代 (津中部北地域包括支援センター)



発行 三重県地域包括・在宅介護支援センター協議会
 〒514-8552 三重県津市桜橋2丁目131 三重県社会福祉会館内
 TEL 059-228-0014 FAX 059-222-0305
 MAIL m-hozai@miewel.or.jp

